

めざす子ども像 **やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成**
「確かな学力」と「豊かな心」を育むことを目指す

取組目標 **学校が大好きで、ふるさとが大好きな都跡の子どもを育てる。**

【今年度の取組紹介】

- ・自治会主催の「都跡ふれあいまつり」は、コロナ禍のため飲食ブースをとりやめ、午前中のみでしたが、3年ぶりに小学校にて盛況に開催されました。地域住民のふれあいの場にすべく園、小、中、高、公民館も協力して運営にあたりました。体育館では中学校生徒会による司会のもと、園児のおゆうぎや小中高の楽器演奏の発表が行われました。大学生参画事業の奈良教育大生1名が準備委員会から参加し、感染症対策、会場の設営、当日の入場者の誘導も積極的に行ってくれました。会場の片付けは生徒と一緒に行うことですみやかに出来ました。
- 
- ・本好きの子ども達を育てる為の活動として蔵書の表紙を見せる面展示を増やしました。本を手にする機会を作る為、司書さんと牛乳パックでブックスタンドを作りました。壁面装飾の他に、小学校では子ども達が遊べるコーナー（どんぐりごま作りやすごろく等）を季節ごとにもうけました。読み聞かせはこども園で年度初めより対面、小学校では当初給食時間に放送で行っていましたが、3学期からは全学年教室で行うことができ、より楽しいひとときを子ども達と過ごす事ができました。

【今年度のまとめ】

- ・地域との共同開催のふれあいまつりを実施することができ、住民同士の交流の場が持てました。園児や児童、生徒たちに発表の機会が与えられたことは喜ばしく思います。
- ・活動が制限される中でも、読書推進と栽培体験は、例年通りボランティアのみなさんに参加していただきました。しかし活動が滞る中ボランティア同士の交流が減少し、声掛けに苦労する事もありました。

【来年度に向けて】

- ・年度末の広報紙「みあと」、学期ごとのボランティア募集のチラシは、引き続き発行し、地域への広報活動を継続していくよう考えています。
- ・中学生が地域との連携事業（ふれあいまつり等）に企画段階から参加できるように働きかけていきます。
- ・コロナ禍が落ち着けば、各校園教職員との交流会を開催し、協議会への理解を深めてもらいたいと考えます。
- ・年度初めには各種団体の会議に出向き、協議会の取組を知ってもらう機会を検討します。

めざす子ども像

やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成 「確かな学力」と「豊かな心」を育むことを目指す

取組目標

人を愛する心や学校・地域を愛する心を育てる。
地域で育つ中学生として、地域の一員としての役割を担える生徒の育成。

【今年度の取組紹介】

- 毎年生徒たちも楽しみにしている植物の栽培活動。本校の目玉でもある「ゴーヤカーテンづくり」を今年も実施することができました。夏には立派なゴーヤが収穫できました。また、みあと農園で「サツマイモ」を栽培し、たくさんのサツマイモが収穫できました。収穫したゴーヤやサツマイモは、地域の皆様や来客者にも振舞うことができました。また、みあと花壇やプランターには多くの花を植え付けて育てることができました。これらの日々の世話は『いきもの係』が中心になって水やりなどを行いました。
- 読書推進事業では、地域コーディネーターやボランティアの方々との市の図書館司書の方が定期的に来ていただくようになり、図書室の環境整備や書籍管理を行っていただいています。文芸委員が図書室開放を運営する際に役立つバーコード操作や分類ラベルの意味と整理の仕方、ブッカー掛けなどについて、生徒向け勉強会をしていただき、生徒たちが多くの本と出会う機会となりました。校内の掲示スペースにもたくさんの掲示物を工夫して配置していただきました。



【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら、無理なく実施できる活動を模索しながら事業を実施しました。生徒と地域の方々が協働して行う「みあと農園」「みあと花壇」はじめとする栽培体験活動が取組の中心でしたが、地域の方々と触れ合う機会を多く持ち、共に活動させていただきました。令和元年度から活動をスタートさせた「いきもの係」も徐々に定着してきました。また、ボランティアとして地域活動や学校美化活動に参加する生徒たちの姿が増えてきました。生徒たちの地域に対する理解や関心が高まり、活動を通して自分たちの学校をきれいにしていく美化意識の向上や地域の方との協働につなげることができました。

【来年度に向けて】

- コーディネーターやボランティアの募集活動の協力ができるよう、中学校での支援事業を中心に、学校 HP 等での発信にも力を入れ、よりたくさんの保護者等にも引き続き周知していきたいと思えます。
- 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、この数年間実施できなかった取組の中で、再開できるものを増やしていきたいと思えます。

めざす子ども像

やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成**「確かな学力」と「豊かな心」を育むことを目指す**

取組目標

世界遺産のあるまち**都跡で暮らし、都跡を学び、都跡を誇れる児童の育成****【今年度の取組紹介】**

○平城宮跡オリエンテーリング

毎年4年生が平城宮跡歴史公園内を地域のボランティアの方々の協力を得ながらオリエンテーリングをしています。

今年度は平城宮跡歴史公園の奈良県推進事業部の方の協力もあり、より深い学習を行うことができました。半日の活動でありましたが、平城宮跡のさまざまな場所を歩いて回り、それまで学習したことと結びつけながら活動しました。チェックポイントではボランティアの方々から詳しいお話をさせていただき、興味をもって取り組むことができました。



平城宮跡オリエンテーリング

○学校図書館支援事業

子どもたちが本にふれる機会をふやそうと、地域コーディネーターや図書館司書の方を中心に数多くのボランティアの方々が学校図書館の環境整備や本の整理を行っています。今年度は読み聞かせ活動を放送で行い、教職員に図書室にあるお勧めの本の紹介のポップを作成していただくなど、学校とボランティアの方々と協力し、取り組むことができました。また、コーディネーターの方には本の紹介だけでなく、選書から関わっていただきました。本に関連した様々なものをつくって学校図書館へ子どもたちが足を運びやすいように工夫していただきました。



図書室のポップ

【今年度のまとめ】

○コロナ禍の影響により、多くの活動が中止または形態を変えての実施となりました。そのなかでも**地域の方々**は、「子どものためなら」とか「子どもと一緒にいると元気をもらえる」と考え、できることは何かを考え、様々な場面で学校に協力してくださっています。そしてこのような情勢の中でも図書ボランティアや下校指導など、新たにボランティアを志望してくださる方も多くいらっしゃいました。教職員や子どもたちは、このような地域の方々の温かい気持ちに実際に触れることで、地域の方々の思いを知ることができたと思います。こうした地域の方々と子どもたちが一緒に活動する場面が増えるよう、各活動の実施方法を検討していきたいと思います。

【来年度に向けて】

○今年度も昨年度に続き、コロナ禍の中で行事や活動の中止があり、昨年以上に「今まで通り」が通用しない1年でした。そのような中でも今まで築き上げた「子どもたちから地域の方々が見える」「教職員から地域の方々が見える」という関係を大切にしながら、地域の方々と子どもたち・教職員がつながる場面を確立・拡大していきたいと考えています。

めざす子ども像

やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成**「確かな学力」と「豊かな心」を育むことを目指す**

取組目標

地域とのつながりの中で、みんなで遊びを創る**笑顔があふれるこども園をめざす**

【今年度の取組紹介】

○環境整備事業

園庭南側の丘の斜面に、地域の方と一緒に芝生植えを行いました。事前に植える場所の土が固くなっていたので、土を耕し、石や雑草を取り、肥料入りの土を入れ、土づくりをするところから子どもたちも行い「草いっぱい取れた」「土がふかふかになったね」と植える日を楽しみにしていました。芝生植えの日には、地域の方と一緒に斜面の上から順番に並べ「芝生って重いね」「ブロックみたい」と友達と一緒に運び、並べ終わると、地域の方が目土を蒔く姿にも見入り「きれいになった」と喜んでいました。水やりをしながら「虫捕りしたいな」「滑って遊びたいな」と楽しみにする姿がありました。9月には芝が茂り、虫捕りをしたり、「気持ちいいなあ」と寝転がりながらいろいろな転がり方を試したりして遊ぶ姿があるなど、子ども達の大好きな場所となりました。地域の方と一緒に自分たちで遊びの場を創るという貴重な体験ができました。



○本物にふれる体験事業

毎年秋に平城宮跡へ地域の方に付き添ってもらい、冬場に餌が少なくなる奈良公園の鹿の為にドングリを届けようと、ドングリ拾いに行っています。昨年拾った場所へ下見に行くと、あまりドングリが落ちておらず、困っていることを地域の方に相談したところ、他の場所を教えてくださいました。当日は一緒に付き添っていただき、「こんなにドングリ拾えたよ」「袋いっぱい重いなあ」と木の下で子どもたちもたくさん拾いながら、地域の方と会話する姿がありました。その日以外にも園に地域や近隣の園からもドングリが届けられ、5歳児が代表してたくさんドングリを鹿愛護会へ届けることが出来ました。



【今年度のまとめ】

- 今年度も活動内容や方法を地域の方と相談しながら、環境整備事業・本物に触れる体験・読みきかせ・栽培活動等に取り組みました。人数等は制限あったものの、地域と共にできる形で実施することができ、子ども自ら環境を創る経験や、地域の方を身近な存在として、人とつながる喜びを感じ、感謝の気持ちや思いやりの心が育ち、豊かな心を育む機会となりました。

【来年度に向けて】

- 引き続き『みんなで遊びを創る笑顔があふれるこども園』を目指し、子ども達にとって豊かな経験となるよう活動を継承していくと共に、内容や活動方法・人数等を見直し、地域・保護者の方と一緒にできることを増やしながら、連携を深め教育・保育の充実につなげていきたいと思ひます。